

やましな

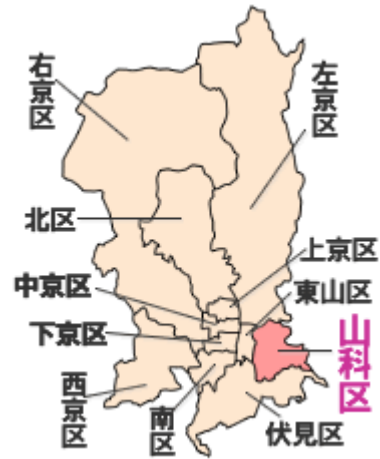
山科

疏水沿いの小径 淡く色づく春の桜 気ままな花見散歩



山科の散歩道は桜の季節に歩きたい。東山から蹴上インクラインを経て山科疏水が山すそを練取るように流れ、約4kmにわたって桜並木が続き、遊歩道が整備されている。鬱蒼と木々が茂る天智天皇山科陵から疏水へ出る。川の流れを眺めのんびり歩けば、疏水の北側には由緒ある寺社が点在する。安祥寺から、水路が立体交差する安祥寺川を越え、安朱橋から山側に分け入ると、赤穂浪士ゆかりの瑞光院、しだれ桜が優美な毘沙門堂がある。山科聖天の名で親しまれる双林院は毘沙門堂の山内寺院で、こちらが桜の名所だ。

桜並木と菜の花が疏水に
織りなす春模様を追い
幽閑とたえず山科に赴く



上賀茂神社 比叡山
金剛寺 京都御所
叡山 安楽寺
京都駅 東福寺
伏見稲荷 醍醐寺

歩く距離は **5.0km**
 (ぼんち歩いて 8000歩)
 歩くと **1時間40分**
 (消費カロリー 230kCal)

スタート

御陵駅
 地下鉄東西線
 京都駅から烏丸線で5分、烏丸御池駅で乗り換え、東西線で11分
 徒歩15分

1 天智天皇山科陵
 てんじてんのうやましののみさぎ
 徒歩32分

2 安祥寺
 あんしやうじ
 徒歩16分

3 瑞光院
 すいこういん
 徒歩7分

4 双林院
 そうりんいん
 徒歩5分

5 毘沙門堂
 ひしゃもんどう
 徒歩25分

ゴール

山科駅
 地下鉄東西線
 烏丸御池駅まで12分
 J/R東海道本線
 京都駅まで5分

3 瑞光院

すいこういん

赤穂浪士の遺髪を納める

赤穂藩・浅野家の祈願寺。堀川鞍馬口にあったが堀川拡張工事で現在地に移転。境内には浅野内匠頭の供養塔と、赤穂義士47人のうち切腹した46人の遺髪を納めた遺髪塚が立つ。

☎075-581-3803
 所 京都市山科区安朱堂ノ後町19-2
 開 9:00~16:30 休 不定休 料 無料



◎境内に浅野稻荷神社も建っている



◎江戸初期に毘沙門堂の塔頭寺院として建立

4 双林院

そうりんいん

本尊は秘仏の聖天さん

本尊は、頭が象で体が人間の大聖歡喜天(聖天)。ほかにも武田信玄や信徒が奉納した約70体の聖天を祀っており、寺は山科聖天とも呼ばれている。秋は紅葉の見物客で賑わう。

☎075-581-0036
 所 京都市山科区安朱稻荷山町 境 拝観自由 休 無休 料 無料



5 毘沙門堂

ひしゃもんどう

毘沙門天を祀る、桜と紅葉が圧巻の山寺

大宝3年(703)に行基が開山。山科盆地を見下ろす山腹に建つ。寢殿には狩野益信筆による116面のすぐれた障壁画がある。春には樹齢150年のしだれ桜が存在感を誇る。境内が紅葉の錦に彩られる秋も魅力的。

☎075-581-0328
 所 京都市山科区安朱稻荷山町
 開 8:30~17:00 休 無休 料 500円



◎江戸時代に再興して現在地に建てられた

◎本堂に秘仏の毘沙門天像を安置する

天智天皇の御陵から、疏水をたどって山すそに点在する古寺を訪ね歩く。春だけでなく、紅葉や新緑の風景も魅力

1 天智天皇山科陵

てんじてんのうやましののみさぎ

大化の改新の主導者の墓

天智天皇の陵墓。中大兄皇子と呼ばれた皇子時代に中臣鎌足らと蘇我氏を滅ぼし、大化の改新を行なった。天智天皇が日本初の時計台を造ったことにちなみ、日時計を設置。

☎075-541-2331
 (宮内庁月輪陵墓監区事務所)
 所 京都市山科区御陵上御庭野町
 開 境内9:00~16:00 休 無休 料 無料



◎御陵内は柵に包まれている

2 安祥寺

あんしやうじ

疏水沿いに建つ古刹

平安前期に文徳天皇の母・藤原順子の発願により創建した真言宗寺院。かつては上寺と下寺に分かれて壮大な寺域を誇っていたが、のちに衰退し現在地へ移転。本堂は江戸時代築。

☎075-581-0853
 所 京都市山科区御陵草林町22
 開 内部非公開



◎本尊は十一面観音像。内部は非公開

おさんぽ info

山科疏水沿いの道

疏水沿いには遊歩道が整備されており、散策にはうってつけ。春には約4kmも続く桜並木がピンク色のトンネルをつくり、秋には紅葉が美しい。

●山科の変遷

山科と言いますと、大石内蔵助、琵琶湖疎水、天智天皇等々のキーワードが思い浮かびます。この山科一帯は、平安時代には、山城国宇治郡山科郷という名で呼ばれていました。さらに歴史を遡ることができ、古くは縄文時代からの足跡が今も残されています。芝町遺跡や中臣遺跡からは土器や石器類が発掘されます。万葉ロマンの世界をしのばせる鏡山や天智天皇陵も見逃せません。平安時代から存在するという数々

の伝説を秘める有名社寺もあります。

山科は大石内蔵助が討ち入り前に隠れ住んでいたといわれていますので、ご存知の方も多いでしょう。毎年12月14日には、「山科義士まつり」に住民の多くが参加します。

半日のわずかな時間でしたが、山科の一端を垣間見てきました。

毘沙門堂

安朱橋から疏水を離れ、毘沙門堂道を北に向かうとすぐに瑞光院。境内には浅野内匠頭の供養塔、四十七士墓、瑞光院遺躅碑(いたくひ)等が並ぶ。

琵琶湖疏水

京都にとって琵琶湖の水を引くことは昔からの夢でした。第3代京都府知事となった北垣国道が、明治維新による東京遷都のため沈みきった京都に活力を呼び戻すため、琵琶湖疏水の建設を取り上げました。

山科北部を流れる琵琶湖疏水(第一疏水)は明治23年に完成しました。京都の近代化を目指して建設された大土木事業で、水力、干害、舟運等に利用できるようになりました。また、これにより、山科に新しい景観をもたらしたのです。

藤尾の第一トンネル出口辺りでは深い谷のように見える疏水は、10分ほど歩くと水面が間近になる。かつて舟が往来していた当時の様子を想像しつつ流れに沿って歩くと、一燈園資料館「香倉院」が見える。一燈園創始者西田天香に関する資料等が展示されている。この辺りからは山科を囲む山や町全体の眺望が良い。

京都にとって琵琶湖の水を引くことは昔からの夢でした。第3代京都府知事となった北垣国道は、明治維新による東京遷都のため沈みきった京都に活力を呼び戻すため、琵琶湖疏水の建設を取り上げました。疏水の水力で新しい工場を興し、舟で物資の行き来を盛んにしようという計画です。

福島県の安積疏水の主任技師南一郎平に琵琶湖疏水計画の調査を依頼し、大津京都間の測量を島田道生に命じ、東京の工部大学校を卒業したばかりの田邊朔郎を土木技師に採用するなどの準備を進めました。

予算の原案は当時のお金で60万円でしたが、政府からもっと念入りな工事をするようにとの意見が出て、工事予算は125万円になりました。議会は市民に税金を掛けてでも計画を進めると決定し、明治

18（1885）年に着工しました。

第1トンネルは長さが2,436メートルもあり、完成を危ぶむ人が多く難工事でした。わが国で初めて堅坑利用による工法を採用し、れんが、材木も直営で生産し、ほとんど人力だけで工事をしました。

琵琶湖疏水は着工から5年後の明治23（1890）年に完成しましたが、水力発電を採用したおかげで、新しい工場が生まれ、路面電車も走り出し、京都は活力を取り戻しました。それから20年後、更に豊かな水を求めて第2疏水を建設し、同時に水道と市営電車を開業したことで、今日の京都のまちづくりの基礎ができあがったのです。

琵琶湖疏水は今も京都に琵琶湖の水を供給し続けています。

琵琶湖疏水はまさしく京都に命の水をもたらしてくれているのです。

安祥寺

洛東高校前から流れに沿うとすぐに安祥寺。九世紀中頃、仁明天皇の皇后藤原順子の御願で入唐僧（にっとうそう）恵運が開基。昔は、上寺と下寺があり、山科北部に広大な地域を占めていた。上寺跡は毘沙門堂から約1キロメートル、安祥寺山中腹にあるが近寄り難い。

名所図会に、下寺の多宝塔が描かれているが、明治39年焼失。当寺の五智如来像（重文・平安初期）、蟠龍（ばんりゅう）石柱（唐時代）は京都国立博物館で見ることができる。



毘沙門堂 <http://www.bishamon.or.jp/index.html>

毘沙門堂は天台宗五箇室門跡のひとつで、高い寺格と鄙びた山寺の風情を伝える古刹である。ご本尊に京の七福神のひとつ毘沙門天を祀ることからこの名がある。

創建は大宝三年（703）文武天皇の勅願で僧行基によって開かれた。当初は出雲路（上京区・御所の北方）にあったことから護法山出雲寺といった。その後、たび重なる戦乱から苦難の道をたどり、寛文五年（1665）、山科安朱の地に再建。後西天皇の皇子公弁法親王が入寺してより門跡寺院となった。伝教大師が唐より将来された鎮将夜叉法という行法は、天台五箇大法のひとつとして当門跡だけに伝わる秘法である。

ご本尊の毘沙門天は、天台宗の宗祖で比叡山を開かれた伝教大師のご自作で、延暦寺根本中堂のご本尊

薬師如来の余材をもって刻まれたと伝えられる。商売繁盛・家内安全にご利益があり、一月初寅参りには福笹が授与され善男善女で賑わう。

境内の諸堂は近世の門跡寺院特有の景観を伝える貴重な遺構であり、その多くが京都市の有形文化財に指定されている。山科盆地を見おろす山腹に位置し、春の桜、秋の紅葉は知る人ぞ知る京の名所でもある。

霊殿(れいでん)

阿弥陀如来を中央にして歴代の影像や位牌を安置している。永禄六年(1563年)御所の御霊屋として建立されたが、三世公辨法親王住持の時、後西天皇より拝領移築された。

高台弁才天

太閤秀吉公の大政所高台尼公が大阪城内で念じていた弁才天であったが、当門跡中興三世一品公弁親王が巡錫の砌り、庶民福楽の為に、所望せられて当地に勧請せられた。

宸殿(しんでん)

御所にあった後西天皇の旧殿を貞享三年(1686年)に第六皇子一品公弁親王が拝領し、元禄六年(1693年)に移築を完了し当門跡の新書院とした。

宸殿襖絵

宸殿内部の障壁画百十六面は、すべて狩野探幽の養子で駿河台派の始祖狩野益信の作。どの角度から見ても、鑑賞者が中心になるという逆遠近法の手法。

天井龍

霊殿の守護龍で、狩野永叔主信の作。眼の向きや顔が、見る角度によって変化する。四角の雲の色彩を違えているのも特徴あるところ。

板戸の衝立

圓山応挙筆。平凡な杉板戸ではあるが実に迫力のある大きな鯉が泳いでいる。これは旧院書の板戸でその豪華さがうかがえる。鯉の眼を見ながら左右にゆっくり動くと・・・

晩翠園(ばんすいえん)

谷川の水を引き滝を造った江戸初期の回遊式庭園。「心字」の裏文字を形取った池に、亀石、千鳥石、座禅石などが配置された名園。

勅使門(ちやくしもん)

宸殿と共に三世門主一品公弁親王が、後西天皇より拝領し、元禄六年(1693年)に移築完了した檜皮葺きの総門で、陛下の行幸、勅旨の代参、並に当門跡門主晋山の大事以外は一切開門されない。

手水鉢(ちょうずばち)

晩翠園の一角にある銘器で一品公弁親王が大変好まれた鞍馬自然石の手洗いで、上野寛永寺へ下向の砌り牛に引かさせて所持されたことでも有名である。

大石神社 (<http://www.ohishi-jinja.jp/>)



忠臣蔵で有名な大石内蔵助良雄を祭神として 1935(昭和10)年に創建された神社です。

毎年 12 月に行われる「山科義士まつり」の舞台ともなっており、境内にある宝物殿には忠臣蔵に関係する資料が多く展示されています。



<http://www.ohishi-jinja.jp/yuisyo.html>

この大石神社は昭和十年赤穂義士大石内蔵助良雄の義挙を顕彰するため大石内蔵助良雄公をご祭神として、大石隠棲の地に京都府知事を会長とする大石神社建設会、山科義士会、また、当時浪曲界の重鎮であった吉田大和之丞（奈良丸）を会長とするもの等の団体が組織され、全国の崇敬者により創建された。

元禄十四年（一七〇一）三月、赤穂藩主浅野内匠頭長矩が江戸城内松の廊下において、吉良上野介義央に対し刃傷におよび、内匠頭は即日切腹、御家断絶、領地没収となり、赤穂藩の城代家老大石内蔵助良雄は城明け渡しの後、同年六月二十八日、以前からこの付近の田地、屋敷を持っていた親類の進藤源四郎の世話でこの地に移った。閑静で人目につきにくく、かつ交通に便利で、事件の善後策を講じるのに何かと便利であり、この地でしばしば同志の会合を開いた。また、敵の目を欺くため、伏見撞木町、祇園一力亭などで遊興にふけた。はじめは、はやる同志をおさえて、亡主内匠頭の弟大学長広をたてて主家の再興を謀った。しかし、翌、元禄十五年夏、結局再興は許されず、吉良邸討入りに方針を固め、同志は密かに江戸へあつまった。

元禄十五年十二月十四日、大石内蔵助良雄以下四十七士は吉良邸へ、表門には、大石内蔵助を頭として片岡源五右衛門ら二十四名、裏門からは、大石主税を頭とし堀部安兵衛ら二十三名、両門より襲撃し、六時頃本懐を遂げ、その後四十七士は、泉岳寺の長矩の墓前に、その御首を捧げ復讐の報告をする。翌、十六年二月四日、細川・松平・毛利・水野四侯家にて切腹す。明治天皇が「百世の下感奮興起せしむ」と仰せられたその義挙と誠忠は今日に到っても広く熟知され、そのご神徳（大願成就）を心に秘めて、討入りの十二月十四日の義士行列等の義士祭はもとより、一年をどうして全国より多数の参拝者がみえる。



赤穂義士討入りに際し、必要な武器を調達した。大阪の本町橋に店をかまえ北組惣年寄の大阪の豪商であり、「商売の神様」と言われ、現在も（商売繁盛）の信仰があつい。「天野屋利兵衛は、男でござる。」の名ゼリフは有名である。

二千三百坪。神池など稲荷山の東麓に位置し、さくら、もみじ等多く、四季それぞれ美しく山上の緑と調和し、風情のある社頭である。

岩屋神社(<http://www.iwayanomori.org/shrine/index.html>)



山科区内で最も古い神社の一つで、本殿背後の山中にある巨大な陰岩と陽岩を御神体としており、古代の磐座信仰の姿をよく伝えています。

昔、この岩から水が湧き出し、村の水田を潤していたと伝えられています。

勸修寺



醍醐天皇が900(昌泰3)年に創建した真言宗山階派大本山の門跡寺院です。

境内には平安時代の姿を残す池泉回遊式の庭園、書院などがあり、書院の前庭には、水戸光圀寄進と言われる灯籠があります。